

臨時運行許可業務の実態調査結果

中国運輸局自動車技術安全部管理課
令和6年8月

臨時運行許可証、臨時運行許可番号標の適正管理の観点から、自治体が行う臨時運行許可業務の実態を把握し、その結果を踏まえた今後の効果的な技術的助言を検討する目的で調査を実施した。

先行して近畿運輸局において、近畿運輸局管内の自治体における臨時運行許可業務の実態調査を実施したところであるが、全国の臨時運行許可業務を実施している自治体へも調査を実施し、各運輸局管内の実態を把握する必要があることから実施したものの。

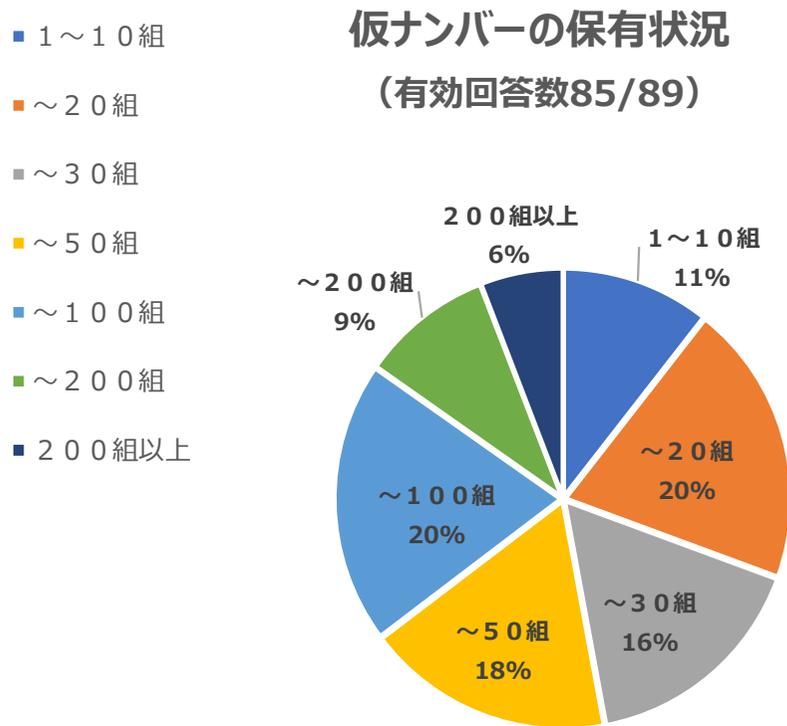
臨時運行許可を実施している中国局管内の自治体は89市区町村（54市、35町）となっている。

当該89市区町村に対し、令和4年度の実績を対象として、臨時運行許可証、番号標の取扱い等の実態について調査を実施し、85市区町村（52市、33町）から回答を得た。

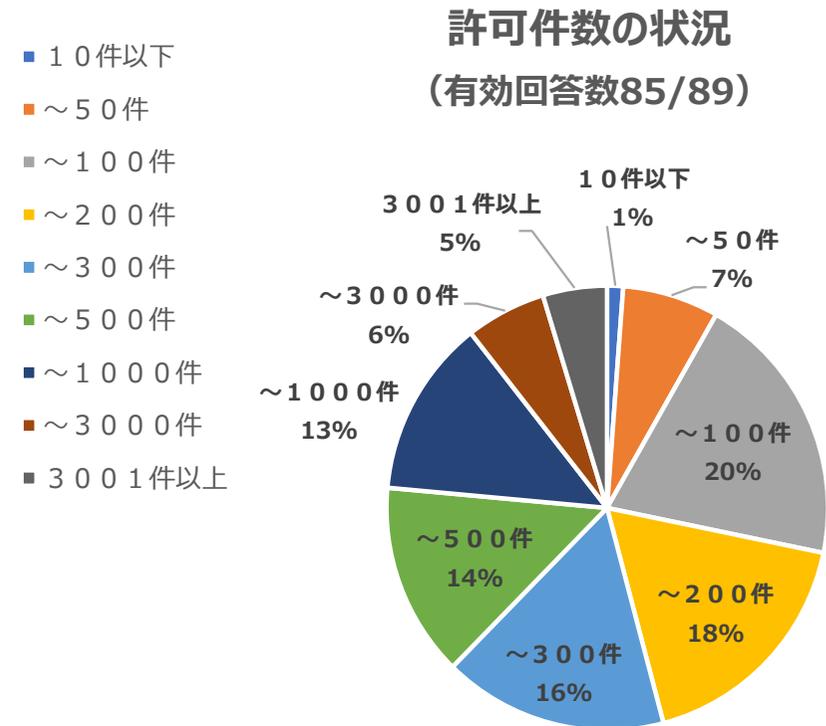
本資料は、自治体にフィードバックする目的で調査結果を取りまとめたものである。

臨時運行許可番号標の保有数と許可件数の状況

- 保有する番号標の組数は自治体によって大きく異なる（最小4組、最大630組、平均69組）
- 許可件数500件までの自治体は全体の76%、自治体あたりの平均許可件数は534件/年



- 仮ナンバーの保有組数が最小の自治体で4組、最大の自治体で630組であり、人口数や自治体の実情によって、非常に差があることが分かった。
- 保有枚数が50組以下の自治体が半数以上（65%）、100組以下の自治体が過半数（85%）を占めている。



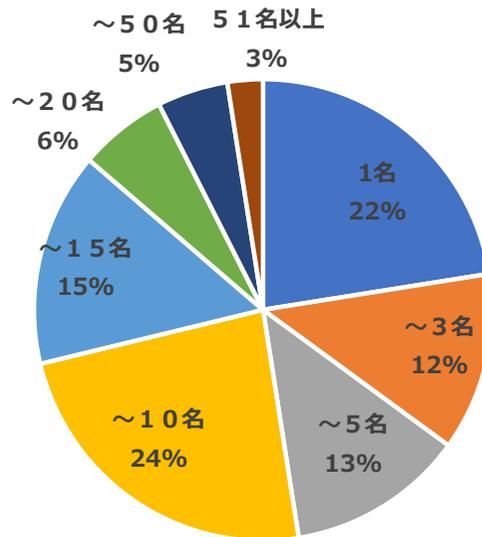
- 許可件数が最小の自治体では8件、最大の自治体では5,269件であり、地域の実情等によって、自治体ごとの許可件数にも大きな開きがあることが分かった。また、50件超500件までの自治体が、全体の約7割を占めていることが分かった。
- 自治体あたりの平均許可件数は534.3件であった。

臨時運行許可番号標に係る自治体の担当者数と違反件数の状況

- 担当する職員数は自治体によって大きく異なる（最小1人、最大148人、平均10人）
- 違反ゼロの自治体は全体の11%、自治体あたりの平均違反件数は68件／年

- 1名
- ～3名
- ～5名
- ～10名
- ～15名
- ～20名
- ～50名
- 51名以上

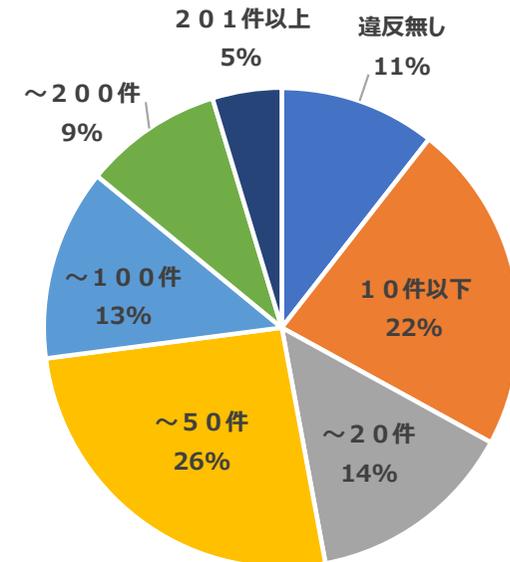
担当職員数の状況
(有効回答数85/89)



- 担当職員数について、最小の自治体では1名、最大の自治体では148名と、自治体によって職員数にも大きな開きがあることが分かった。
また、担当職員数3名以下の自治体が約3割を占め、5名以下では約5割、10名以下では7割以上を占める。担当職員が6～10人の自治体が最も多く、全体の24%を占めているが、担当職員が1人という自治体も多く、全体の22%となっている。
- 自治体あたりの平均の担当職員数は10.3人であった。

- 違反無し
- 10件以下
- ～20件
- ～50件
- ～100件
- ～200件
- 201件以上

違反件数の状況
(有効回答数85/89)



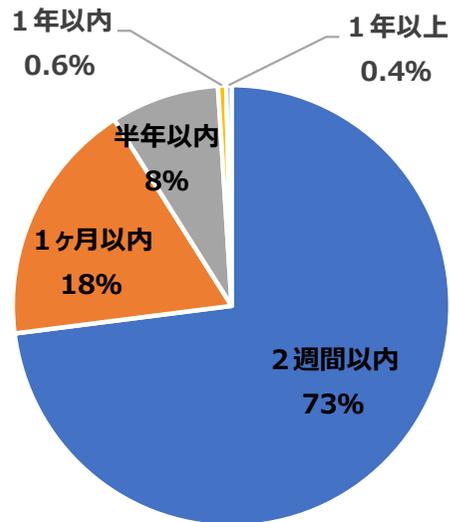
- 違反件数0件と回答した自治体は全体の11%にとどまり、違反件数が最大の自治体では1094件であった。1年間で違反が50件以下の自治体が全体の過半数を占めており、21件超～50件以下の自治体が全体の26%と最も多かった。
- 自治体あたりの平均違反件数は68.3件であった。

臨時運行許可番号標に係る未返納期間と違反率別自治体数の割合

- 未返納であった場合も、2週間以内に73%、1ヶ月以内では91%が回収できている
- 違反率が10%以下の自治体は全体の59%、20%以下では85%

未返納の期間別割合 (有効回答数85/89)

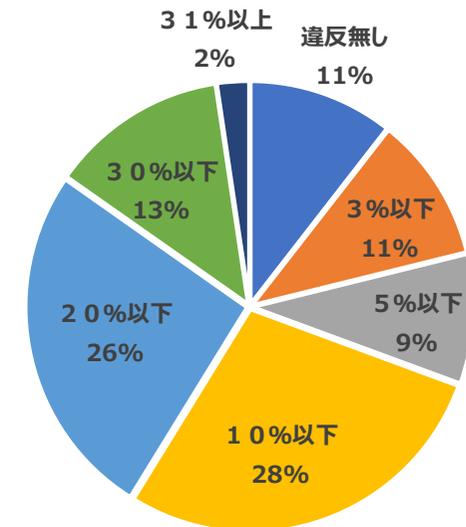
- 2週間以内
- 1ヶ月以内
- 半年以内
- 1年以内
- 1年以上



- 返納期間を超過し、未返納となった場合の返却までの期間ごとの割合は、2週間以内が全体の73%と最も多い。次いで、2週間超～1か月以内の18%、1か月超～6か月以内の8%となった。
- 未返納の期間が1か月以下の割合は91%、6か月以下では99%であることから、未返納となった場合でも半年以内にはほぼ回収が出来ていることがわかる。

違反率別自治体数の割合 (有効回答数85/89)

- 違反無し
- 3%以下
- 5%以下
- 10%以下
- 20%以下
- 30%以下
- 31%以上

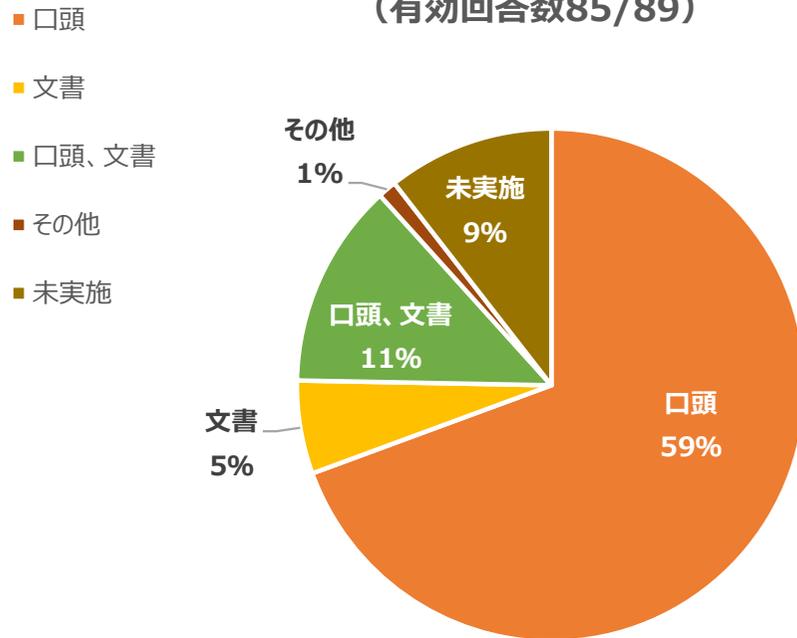


- 各自治体ごとに、許可件数に占める返納期間内未返納となった違反件数の割合を算出し、違反率0%から30%超までのグループに分類したところ、違反無しの自治体は11%であり、最も違反率の高い自治体は38%であった。
- 自治体当たりの平均違反率は19.7%であった。

臨時運行許可に係る自治体の返納期限の案内状況

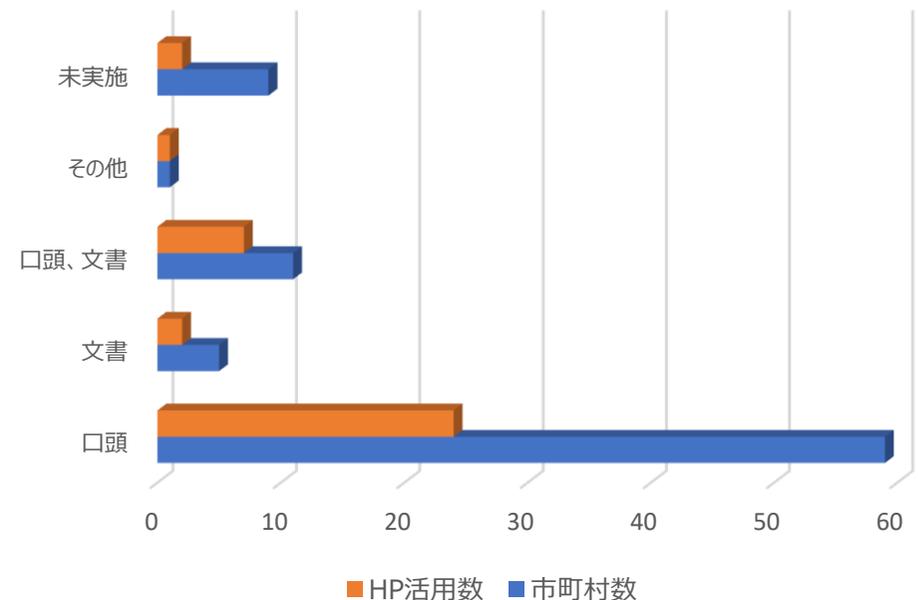
- 返却期限を申請者に口頭のみで伝える自治体が半数超、しかし未実施の自治体を9%確認
- HPによる返納期限の案内を行っている自治体は36市町であり、全体の42%
- そのうち約半数が口頭案内等も合わせて行っていることを確認

返納期限の案内状況 (有効回答数85/89)



- 許可終了後5日以内に返納しなければならない旨の案内を何らかの方法で実施している自治体は、全体の約9割であることが確認できた。
- 案内方法については、最も多い口頭案内が59%、文書による案内が5%、その他による案内が1%であったが、案内を複合的に実施している自治体もあることが確認できた。
- 一方で、返納期限に関する案内を行っていない自治体も9%確認された。

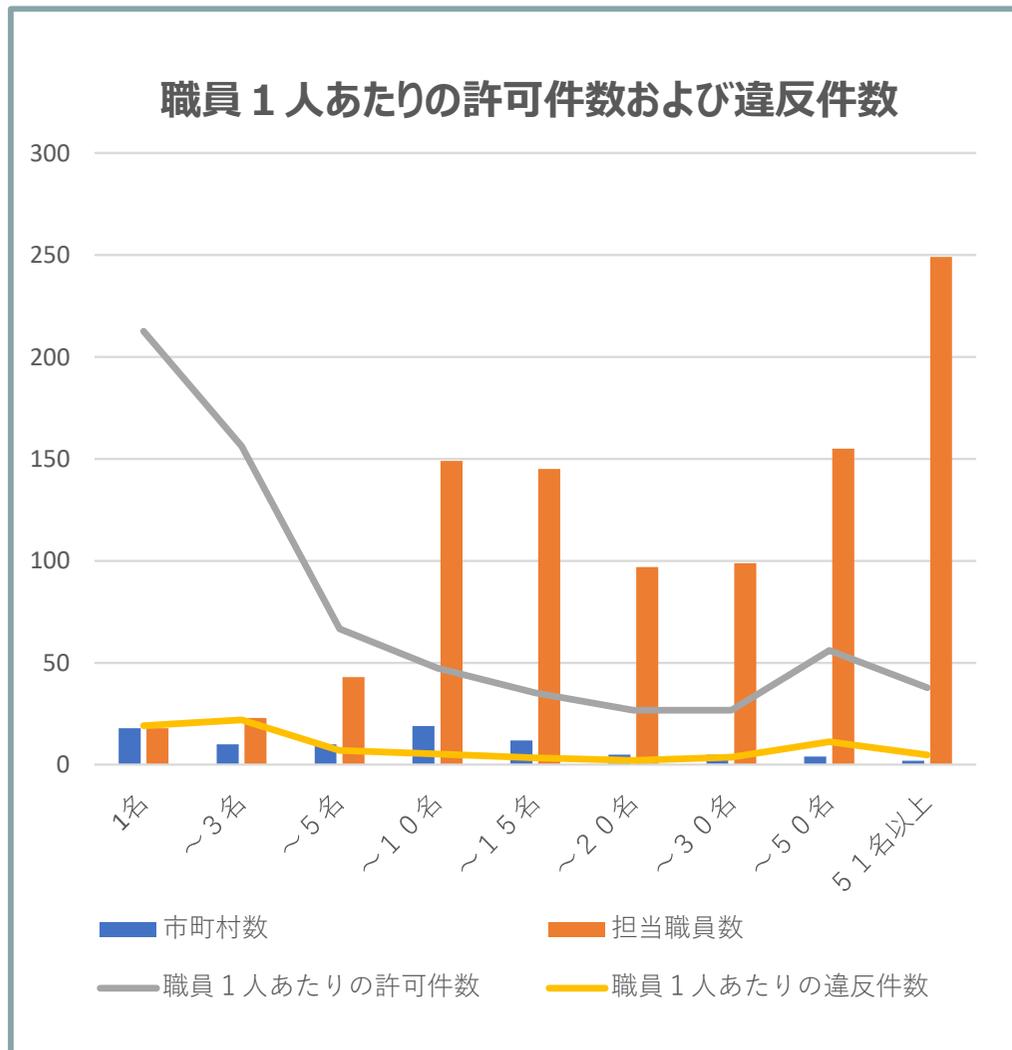
HPによる案内状況 (有効回答数85/89)



- 窓口での返納期限の案内とは別に、HPによる返納期限の案内も行っている自治体数を確認すると、返納期限に関する案内を行っている自治体のおよそ半数が併用していることが確認できた。
- HPによる案内を行っている自治体は42.3%であった。

自治体職員1人あたりによる臨時運行許可および違反件数の比較

- 臨時運行許可を行う自治体職員が1名と50名以上の場合を比較しても、未返納等の違反件数に大きな差は見られなかった。
- 違反率で比較した場合、担当職員1人あたりの許可件数および違反件数は平均職員数が多い自治体の方が増加傾向にある。



違反率の割合による比較

5%未満	違反率	20%以上
26	自治体数	13
249	担当職員数	245
9.5	平均職員数	18.8
10465	許可件数	11914
340	違反件数	2706
42.0	1人あたりの許可件数	48.6
1.3	1人あたりの違反件数	11.0

自治体から運輸局に対する要望は以下のとおりであった。

○改善要望について

89市町のうち、約3割にあたる32市町から計56件の改善要望があった。
分類としては下記のとおり。

- 1.制度改正に関する要望（20件）
- 2.運輸局に対する要望（28件）
- 3.他の機関に関する要望（8件）

○分類ごとの改善要望事項（詳細は別紙参照）

1.制度改正に関する要望

- ①未返納や遅延者に対する対策に関する要望……未返納者への罰則の強化、一定期間許可しない制限の導入など
- ②市区町村の臨時運行許可業務移管に関する要望……臨時運行許可業務を警察または運輸局で一元化など
- ③臨時運行許可関連の予算措置についての要望……番号標の制作費用の補助金、偽造防止の用紙にて許可証用紙配布など
- ④臨時運行許可制度の改正要望……住民しか許可できない取扱変更、督促や催告の際の形式制定など

2.運輸局に対する要望について

- ①マニュアルの充実、最新版の展開等の要望……事務取扱要領や質疑応答集などの資料（メールやHPにて）展開など
- ②支局等相談対応の充実に関する要望……運輸支局等の直通電話番号や問合せ先メールアドレスの設定など
- ③利用者側への周知についての要望……一般向けの分かりやすいパンフレット交付など
- ④車検証の電子化対応に関する要望……記録事項証明書の交付対応終了後のICカードリーダー等準備資金補助など
- ⑤講習会、セミナー、研修に関する要望……初心者向けの講習会や研修実施、遅滞常習者に対する効果的な対応策の教示など

3.他の機関に対する要望について

警察の対応についての要望……未返納者（未返納の臨時運行番号標）に対する取り締まり強化

○質問事項について

89市町のうち、7市町から申請の際に必要な確認書面に関する事務取扱上の質問が11件あった。
（質問については個別に回答済み、また、今後開催するセミナーや業務指針の改定により、全体的に展開予定）

本調査の結果・分析のまとめは以下のとおり

- 集計結果から、番号標の保有組数、許可件数、違反件数、違反率、担当職員数など、臨時運行許可事務の実態が自治体ごとに大きく異なることがわかった。
- HPによる返納期限の案内を行っている自治体は全体の42%、そのうち約半数が口頭案内等も合わせて行っており、複合的に返納期限の案内を行っている自治体の半数以上が違反率10%以下であることが確認できた。
- 違反率10%以下である自治体が約6割を占めており、返納期限の案内の有無、案内の併用によって、違反件数に差が見られたことから、返納期限の案内を効果的に行えば、改善の余地がある。
- 違反率が高い自治体は、低い自治体に比べ職員1人当たりの許可件数（業務量）が若干多い傾向であることがわかった。